

「自助」「共助」「協働」で災害に強い街づくりをめざそう！ 岸根町町内会自主防災だより（第12号）

2023年（令和5年）8月 自主防災部発行

梅雨も明け、本格的な夏となり連日猛暑が続いています。熱中症対策は万全でしょうか。

先日は、突然の天候の急変があり各地で雷（ひょう）や短時間での豪雨などがありました。同時に、雷も発生しました。今回は、雷から命を守る対策について学びます。

1 積乱雲（入道雲、雷雲）

積乱雲は、太陽の日射で地表が熱せられ、地表の湿った空気が暖められ上昇気流となり、上空で水滴となりそのかたまりが雲となります。



2 雷の光

雷が光ったあと10秒後に、ゴロゴロと音が聞こえとすると距離は3,400m離れていることになります。3秒と経たないうちに音が聞こえたと、そこから約1km以内の所に落ちていると算出できます。

3 避難場所

（1）室内に避難する

鉄筋コンクリート建物、木造建築物の中は安全と言われています。（テントなどは危険）建物に直接または近くに落雷があると、雷の電気が電源線、電話線、また水道管などの金属物を伝わって侵入し、近くの人に放電することがあります。全ての電気器具、天井、壁などからは1m以上離れた部屋の中央部に避難する必要があります。（壁には触れない）

（2）車の中は安全

周囲に建物がない場合は、車の中に避難しましょう。金属部には触れないように！

（3）屋外の場合

高い木に落雷があると「側撃雷」を受ける可能性があります。高い木には近寄らないようにしましょう。できるだけ早く建物内や自動車に避難をしましょう。

※ どの場所に避難した場合でも、雷の音が確認できなくなってから20分以上は、安全な場所に避難しましょう。

（4）軒先での雨宿りは危険

軒先は、建物に落雷した時に、電気の通路になりやすく、大変に危険です。

（5）停電対策

懐中電灯やろうそく、家庭用非常電源などの準備も忘れずに！

<注> 音羽電気工業株式会社のホームページより一部転載させて頂きました。